

けいはんな情報通信 オープンラボシンポジウム2012を開催 —10周年の節目にICTの未来を展望—

「けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2012」を、2012年12月3日に大阪新阪急ホテルにおいて、『ICTの未来を展望する』をテーマに開催しました。本年度は、けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会（以下、協議会）設立10周年を記念して、これまでの活動を総括し、今後の方向性を議論することを目的として開催し、92名の方にお越しいただきました。

はじめに基調講演として、京都大学の吉田進教授に、我が国が抱えるICT分野の課題と展望について包括的にまとめていただきました。次に、株式会社ゆめみの深田浩嗣代表取締役社長が、企業経営者の立場から仕事に対する熱い思いを話され、特に若い方に大きな刺激となりました。続いて、10年間の協議会の活動のまとめとして、慶應義塾大学の山中直明教授とATR社会メディア総合研究所の萩田紀博所長にご講演いただきました。また、「情報通信技術・社会の将来像と協議会の役割」と題して、NICT社会還元促進部門の高橋幸雄部門長を座長に、山中・萩田両氏に加え、北陸先端科学技術大学院大学の島田淳一教授、関西文化学術研究都市推進機構の二宮清理事によるパネルディスカッションが行われました。

本シンポジウムは、企業の枠を超えて研究者が集まり研究を行う場として、協議会が非常に有効に機能してきたことを知っていただくよい機会となり、今後ともICTの種を蒔き育てる畑の役割を果たし、研究者が集まって花を咲かせる場を提供していくこととして締めくくりました。



●会場からも活発な意見が出されたパネルディスカッション

光ネットワーク及び関連ソリューション に関するワークショップ等報告

2012年12月10日、トルコ共和国のイスタンブールにおいて、光ネットワーク及び関連ソリューションに関するワークショップが開催されました。本ワークショップは、トルコ政府が建国100周年となる2023年に向けて国民へのブロードバンド・ネットワークの普及を目指した政策を進めていることを踏まえ、日本が中心となって標準化を進めている光通信技術のトルコ市場への導入を目指して、日本・トルコ間におけるICT技術とビジネスにおける協力関係を構築するため、両国の政府、電気通信事業者、製造業者、研究機関等、約180名の参加を得て実施されました。

NICTは、光ネットワーク研究所のネットワークアーキテクチャ研究室 原井洋明室長が、光パケット・光パス統合ネットワーク技術について発表を行い、世界初の100Gbpsの光パケット交換技術、NICTが開発した安定動作する光パケット・光パス統合ノードなどを紹介しました。

「NICT/EMC-net 第9回妨害波測定法研究会」 開催報告

NICT/EMC-net事務局 / 電磁波計測研究所 電磁環境研究室

「NICT/EMC-net第9回妨害波測定法研究会」(主催: NICT/EMC-net)を2012年12月5日にNICT本部研究本館4階国際会議室において開催しました。

NICT/EMC-netは、電磁両立性(EMC)の様々な課題について、本会会員及びNICT職員が、研究会などを通じて情報交換や意見交換を行うことによって、EMC関連技術に関する理解を深め、我が国のEMC関連技術の向上に役立てることを目的とした組織です。今回の妨害波測定法研究会では、同研究会主任の京都大学 和田修己教授の司会で、電気通信大学 上芳夫名誉教授に「回路網理論をマクスウエルの方程式から考えると」と題した講演を行っていただきました。続いてNICT電磁環境研究室 呉奕鋒研究員による「フォトディテクタによるLED 照明からの放射雑音の識別に関する基礎的検討」、同研究室 石上忍研究マネージャーによる「CISPR/A バンコク会議報告」の講演が行われました。EMC関連研究において第一線でご活躍の約40名の方々にご参加いただき、各講演に対して熱心な質疑応答が行われました。

今後も研究会、シンポジウムを通じて、NICTにおけるEMC研究の情報発信を継続するとともに、産学との情報交換を活発にしていきます。



●電気通信大学 上芳夫名誉教授の講演

また、翌12月11日には、トルコ共和国は地震災害の多い国でもあることから、国際電気通信連合(ITU)が主催する災害救援システム及びネットワークの耐災害・復旧に関するワークショップが開催されました。本ワークショップにおいては、NICT耐災害ICT研究センターの概要及び実施している研究内容について紹介しました。



●光パケット・光バス統合技術に関する発表の様子



●光ネットワーク及び関連ソリューションに関するワークショップ会場の模様